

令和7年度 2学年

各教科の学習内容と

その評価方法

江戸川区立小岩第三中学校

<目次>

学習評価・評定について P 1

国 語 ……………P 2～5

社 会 ……………P 6～7

数 学 ……………P 8～10

理 科 ……………P 11～12

英 語 ……………P 13～14

音 楽 ……………P 15～19

美 術 ……………P 20～21

保健体育 ……………P 22～26

技術家庭科 ……………P 27～32

令和 7 年度 国語科第二学年年間指導計画

担当 田口 太 立澤 珠美 深村 薫子

1 評価に関わる教科の基本方針

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを指導の重点としています。

- 日々継続的に学習する習慣をつけさせるための生徒の取り組み

①授業での取り組み ②家庭学習の取り組み ③定期考査などへの取り組み

これらを連動させ、以下の年間指導計画に基づいて指導していきます。各単元での学習内容を深め、それを適正に評価できるよう、評価規準を明確にします。

2 評価方法

観点	項目
知識・技能	・漢字テスト ・文法テスト ・毛筆、硬筆書写 ・提出物の内容 ・定期考査 ・古典の暗唱 など
思考・判断・表現	・スピーチ ・討論 ・弁論 ・音読 ・発表に対する評価 ・発言内容 ・まとめレポート ・作文 ・課題意見文 ・感想文 ・要旨のまとめ ・発表原稿 ・内容理解 ・要点の抜き出し ・文章構造の理解 ・内容を理解した音読 ・定期考査 など
主体的に学習に取り組む態度	・挙手 ・発言内容 ・宿題、提出物の内容 ・まとめレポート ・授業内の課題やグループワークへの取り組み ・小テスト など

3 年間指導計画

学期	月	単元名	時数	学習内容	評価規準と評価の観点
1 学期	4	・授業開き	1	・授業の進め方 ほか。	【知・技】 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【主】 言葉がもつ価値を認識するとともに我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(全ての教材に共通) 【思・判・表】 文章全体と部分の関係に注意しながら登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。 【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 【知・技】 文の成分や照応など文の構成について理解することができる。 【思・判・表】 自分の立場や考えが明確に
		・見えないだけ	1	・詩を読み取り、その特徴を生かして朗読する。	
		・アイスプラネット	4	・通読して、登場人物の設定を確かめ、「僕」の思いを読み取る。	
			1		
	5	漢字に親しもう 1			
		・文法 1 年の復習 (自立語)	4	・文の成分 (1 年の復習) ・活用のある自立語と活用のない自立語の違いを区別する。 ・活用のない自立語の働きを理解する。	
		・魅力的な提案をしよう	5	・提案内容を決め、話の構成や表現を工夫し発表する。	

		・自分流「枕草子」を書こう ・クマゼミ増加の原因を探る ・思考の視覚化 ・職業ガイドをつくる 漢字に親しもう2 ・短歌に親しむ ・言葉の力 ・言葉1語彙を豊かに ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・読書を楽しむ 星の王子様 読書案内	3 4 1 5 1 5 3 2 2 2	・古典の世界に親しみ、古典に表れたものの見方や考え方を知り、自分の考えを自分流「枕草子」として書く。 ・全体と部分の関係に注意して通読し、構成を捉え、内容を読み取り、考えたことを話し合う。 ・教材から情報の関係を整理して視覚的に表す方法を理解する。 ・題材を決め、情報を集め、整理し、紙面構成を考えて作成する。 ・熟語の構成について理解する。 ・音読して解説の内容をとらえ、表現の効果を考える。また好きな短歌を選び、感想を書く。 ・文章の内容をとらえ、筆者の考えを読み取り、話し合う。 ・類義語・対義語・多義語について理解する。 ・メディアを比べてその特徴を理解し、情報を受け取る時の留意点を考える。 ・さまざまな読書活動を知り、感想を発表する。 ・翻訳や外国文学を知る。	なるように根拠の適切さや論理の展開に注意して話の構成を工夫することできる。 【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 【知・技】古典の世界に親しみ古典に表れた見方や考え方を知ることができる。 【思・判・表】文章から理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。 【思・判・表】全体と部分の関係に注意し主張と例示の関係などを捉えることができる。また図表などを結び付け関係を踏まえて内容を解釈することができる。 【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 【思・判・表】目的や意図に応じて多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 【知・技】塾語の活用について理解することができる。 【思・判・表】観点を明確にして表言の効果について考えることができる。 【思・判・表】理解したことや考えたことを、知識や経験と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。 【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに理解し、生活で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思・判・表】目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。 【知技】読書が自分の考えを広げたりするのに役立と理解することができる。 【主体】言葉が持つ価値に気づくとともに我が国の言語文化を大切にしたいや考えを作品にする。
2 学 期	9	・ヒューマノイド	4	・展開に注意し、人物設定をとらえ、言動を解釈する。	【知技】構成や展開について理解を深めることができる。 【思・判・表】登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈することができる。

10	・ 字のない葉書	3	・ 表現に着目して人物の人柄や心情を読み取り、「父」に対する「私」の思いについて考える。	【思・判・表】観点を明確にして構成や表言の効果について考えることができる。
	・ 手紙や電子メールを書く	3	・ 伝える相手や目的、内容を決め通信手段を選び、形式に沿って効果的な語句や表現で書く。	【知技】様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたりすることができる。
	表現効果を考える敬語	2		【思・判・表】自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
	・ 漢字に親しもう 3	1		【知技】敬語の働きについて理解し適切に使うことができる。
	・ モアイは語る	5	・ 構成に着目し内容をとらえ、論理の展開を吟味し筆者の主張に対する意見を書く。	【知技】学習済みの常用漢字に加えその他 350 字から 450 字程度読める。
	根拠の吟味	1		【知技】意見と根拠、具体と抽象など情報の関係を理解することができる。
	・ 意見文を書く	5	・ 課題を決め調べ、適切な根拠を選び「理由付け」を考え、意見文を書く。交流する。	【思・判・表】構成や展開について考えることができる。
	・ 月夜の浜辺	1		【知技】わかりやすく伝わるように段落相互の関係を明確にし構成や展開を工夫することができる。
	・ 平家物語	1	・ 音読して独特の調子とリズムを味わう。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに理解し、生活で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
	・ 扇の的	3	・ 登場人物の言動から心情を考える。	【知・技】古典の世界に親しむことができる。
11	・ 徒然草から	3	・ 文章の内容をとらえ、作者の考え方にについて話し合う。	【知・技】古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。
	・ 漢詩の風景	3		【思・判・表】登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈することができる。
	・ 最後の晚餐	5	・ 二つの文章を比べながら読み、内容をとらえ筆者の意図や目的を考える。	【思・判・表】観点を明確にして構成や表言の効果について考えることができる。
	具体と抽象	1		【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。
12	・ 話し合いの流れを整理しよう	1	・ 話し合いの流れを整理する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象などの関係について理解することができる。
	・ 文法（用言の活用）	3	・ 単語の活用や働きについて理解する。	【知・技】用言の活用について理解することができる。
	・ 討論で視野を広げる	4	・ テーマについて情報を集め、立場に分かれ考えをまとめたのち討論する。	【思・判・表】互いの考えを尊重しながら話し合い結論を導くために考えをまとめることができる。
	・ 書写（毛筆）	3	・ 書体（楷書・行書）の違いに注意して書初めの作品を書く。	【知・技】書体（楷書・行書）の違いに注意して書くことができる。

3 学 期	1	・ 走れメロス	8	・ 作品の設定と場面の展開を押さえ、人物像とその変化を読む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句を増やすとともに類義語や多義語などを理解し、生活の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
		・ 文法 3（付属語）	3	・ 付属語の種類や働きについて理解する	【思・判・表】登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈することができる。
	2	・ 心の動きが伝わるように書く	5	・ 題材を決め設定や構成を考えて書く。	【思・判・表】理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりできる。
		・ 話し言葉と書き言葉	2	・ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解する	【知・技】付属語の種類や働きについて理解することができる。
		・ 漢字 3	2	・ 送り仮名のつけ方を理解する。	【知・技】表現の効果を考えて描写するなど自分の考えが伝わるように工夫することができる。
		・ 漢字に親しもう 4	1	・ 問題に取り組みこれまでに学習した漢字の復習をする。	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。
	3	・ 国語を学ぶ意義を考えコピーを作る	4	・ 対話を通して考え、コピーにまとめる	【知・技】送り仮名のつけ方を理解することができる。
		・ 鍵	2	・ 詩を音読し、表現の意味を考え作者のものの見方について語り合う。	【知・技】漢字の読み書きができていないか
		・ 国語の力試し	3	・ 問題を解き、国語の学習を振り返る。	【思・判・表】互いの考えを尊重しながら話し合い結論を導くために考えをまとめることができる。
					【思・判・表】読み手からの助言を踏まえ自分の文章の良い点や改善点を見出すことができる。
					【思・判・表】詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりできる。
					言葉がもつ価値を認識するとともに我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

令和7年度 第2学年 社会科 評価から評定への総括方法

担当：小野 陽祐

1. 評価に関わる教科指導の基本方針（評価計画）

- ・学習指導要領に基づいたカリキュラムを作成し、言語活動を積極的に取り入れる。
- ・個人で学習や作業だけでなく、意見の共有などによって、地理的分野と歴史的分野の基礎的な知識を身につけさせる。
- ・定期考査だけでなく、授業での課題へ取り組む姿勢、提出課題の内容および単元のまとめと振り返りを重視し、評価していく。
- ・年間を通して地理的分野と歴史的分野を交代して学習していく。
- ・タブレット端末、プロジェクタ等を利用した視聴覚教材を適宜活用していく。
- ・正しい情報を集めて調べる力、調べる力、発表する力をつける。

2. 評価の観点と評価方法

- ① 知識・技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

3. 評価から評定への総括方法の一覧表（各観点を総括して数値化し評価します）

	授業での取り組み				家庭学習の取り組み			考査などへの取り組み		
評価方法	ワークシート	作業・発言・協働	単元のまとめ	振り返り	提出課題・宿題	ワークシート	調べ学習	定期考査	ワーク	評価のポイント
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○	○	○		○	課題意識をもった学習への取り組み 修正する力
思考・判断・表現	○	○	○			○	○	○	○	論理的思考 発言・回答内容 作品の構成 応用力
知識・技能	○	○	○		○	○	○	○	○	創造性 適切な資料の活用 概念の理解 基礎的な知識

4. 令和7年度 第2学年 社会科 年間指導計画・評価規準

学期	月	学 習 項 目 ・ 内 容	評 価 規 準	評価の観点
1	4	【地理分野】 第3部 第1章 身近な地域の調査	・ 世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本の国土の特色を大観することができたか。 ・ 日本の諸地域の地域的特色をとらえるとともに、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色に気付くことができたか。	社会的事象への主体的に学習に取り組む態度
	5	第2章 日本の地域的特色 第3章 日本の諸地域 ・ 九州地方 ・ 中国・四国地方 ・ 近畿地方		社会的思考・判断・表現
	6	【期末考査】		社会的事象の知識・技能
	7			
2	8	【地理的分野】 第4章 日本の諸地域 ・ 中部地方 ・ 関東地方 ・ 東北地方 ・ 北海道地方	・ 日本の諸地域の地域的特色をとらえるとともに、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色に気付くことができたか。 ・ 江戸時代の産業の発達と、その要因となった時代の流れを理解できたか。 ・ ヨーロッパ、アジア各地との関わりの中で全国統一事業の過程を理解できたか。 ・ 江戸時代の産業の発達と、その要因となった時代の流れを理解できたか。	社会的事象への主体的に学習に取り組む態度
	9	第4部 第1章 地域の在り方		社会的思考・判断・表現
	10	【中間考査】		社会的事象の知識・技能
	11	【歴史的分野】 第4章 近世の日本と世界 ・ 結びつく世界との出会い ・ 天下統一への歩み ・ 幕藩体制の確立と鎖国 ・ 経済の成長と幕政の改革		
3	1	【歴史分野】 第5章 日本の近代化と国際社会 ・ 近代世界の確立とアジア ・ 開国と幕府政治の終わり ・ 明治維新と立憲国家への歩み ・ 激動する東アジアと日清・日露戦争 ・ 近代の産業と文化の発展	・ 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解できたか。 ・ 明治新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことを理解できたか。	社会的事象への主体的に学習に取り組む態度
	2	【学年末考査】		社会的思考・判断・表現
	3			社会的事象の知識・技能

1. 評価に関わる教科指導の基本方針

数学は系統的な教科なので、1年生では中学生としての学習習慣を身につけるように指導します。2年、3年生では1年生で学習した数学の基礎を元に、より高次の学習へ生徒が円滑に進めるように指導していきます。

また、言語活動の取り組みとして、自分の意見を相手に伝える発表の場を多く設けていく。

したがって、指導の重点を日常の学習姿勢と考へ、1年から3年まで、次の項目で評価していきます。

●日々継続的に勉強する習慣をつけさせるための生徒の取り組み (評価計画)

- ①授業での取り組み
- ②提出物など家庭学習の取り組み
- ③小テスト、定期テストなどへの取り組み

2. 評価の観点と評価方法

●評価の3観点

- ①主体的に学習に取り組む態度
- ②思考・判断・表現
- ③知識・技能

●評価から評定への総括方法一覧表 (○がついている方法で評価します。)

評価方法	授業での取り組み					提出物等 家庭学習の 取り組み			テスト などへの 取り組み		評価のポイント
	発言	ノート	取 組 み 姿 勢	作業	発表	問題集	プリント	レポート	定期 考 査	小 テ ス ト 等	★授業での取り組み ☆ 発言 授業で積極的に発言しているか。(正誤問わず) 小グループ活動で積極的に発表し、意見を交換し、理解を深めているか。 ☆ ノート ノートをきちんととっているか。 ☆ 取組み姿勢 熱心に話を聴き、取り組んでいるか。授業時間に考えを深める活動をしているか。 ☆ 作業 ワークシートへの記入をしっかりとやっているか。 ★提出物等への取り組み 提出物をきちんと出しているか。 ★小テスト等は、単元内の小テストなども含む。
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
思考・判断・表現	○				○			○	○	○	
知識・技能	○				○			○	○	○	

学期	月	章	時数	節	学習内容	評価規準
1 学 期	4	1章 文字式を使って説明しよう [式の計算]	8	〈とびら〉 スタート地点の差は何m？ 1節 式の計算	・単項式、多項式、項の意味 ・単項式と多項式の次数の意味 ・1次式の意味 ・同類項の意味 ・同類項をまとめる計算をすること ・多項式どうしの加法と減法を計算すること ・多項式と数との乗法と除法を計算すること ・多項式のいろいろな計算をすること ・単項式どうしの乗法・除法を計算すること ・乗法と除法の混じった式を計算すること ・文字を2つくむ式の値を求めること ・式を簡単にしてから式の値を求めること	【知識・技能】 ・簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ・文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 ・目的に応じて、簡単な式を変形することができる。 【思考・判断・表現】 ・具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。
				6	2節 文字式の利用	
			2	章の問題	・章末問題	
	6	2章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式]	7	〈とびら〉 決めたシュートの本数は？ 1節 連立方程式とその解き方	・2元1次方程式とその解の意味 ・連立方程式とその解の意味 ・連立方程式を解くことの意味 ・連立方程式の加減法・代入法による解き方を考えること ・絶対値の等しい係数がふくまれる連立方程式を解くこと ・消去することの意味 ・係数が異なる場合の連立方程式を解くこと ・加減法の意味 ・代入法で連立方程式を解くこと ・連立方程式を適当な方法で解くこと ・かっこをふくむ連立方程式を解くこと ・小数係数、分数係数をもつ連立方程式を解くこと ・$A=B=C$ の形をした連立方程式を解くこと ・連立方程式の解の値から方程式の係数を求めること	【知識・技能】 ・2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ・連立2元1次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ・簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ・1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・連立2元1次方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ・連立2元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
				4	2節 連立方程式の利用	
			2	章の問題	・章末問題	
	7	3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数]	2	〈とびら〉 中火と強火、どちらで沸かす？ 1節 1次関数	・1次関数の意味 ・yをxの式で表して、yはxの1次関数であるかどうかを調べること ・比例は1次関数の特別な場合であること ・反比例は1次関数ではないこと	【知識・技能】 ・1次関数について理解している。 ・事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ・2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 ・1次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 ・1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
			8	2節 1次関数の性質と調べ方	・変化の割合の意味 ・1次関数$y=ax+b$では、変化の割合は一定で、aに等しいこと ・1次関数では、yの増加量はxの増加量に比例すること ・具体的な事象における変化の割合の意味 ・反比例では、変化の割合は一定ではないこと ・1次関数$y=ax+b$のグラフ・1次関数のグラフがどんなグラフかを調べること ・1次関数と比例のグラフの関係 ・グラフの切片と傾きの意味 ・1次関数における表、式、グラフの関係 ・1次関数の増減とグラフの特徴 ・具体的な事象における切片や傾きの意味 ・グラフの切片や傾きを読みとって、1次関数を求めること ・グラフの傾きと通る1点の座標から、1次関数を求めること ・グラフが通る2点の座標から、1次関数を求めること	
9			4	3節 2元1次方程式と1次関数	・2元1次方程式の解を座標とする点をとってグラフをかくこと ・2元1次方程式のグラフと1次関数のグラフの関係 ・2元1次方程式のグラフをかく方法 ・2元1次方程式$ax+by=c$で、$a=0$や$b=0$の場合のグラフをかくてみよう ・連立方程式の解をグラフから求めること ・グラフの交点の座標を、連立方程式を解いて求めること	【主体的に学習に取り組む態度】 ・1次関数の必要性と意味を考えようとしている。 ・1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
			4	4節 1次関数の利用	・2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決すること ・1次関数のグラフを利用して、問題を解決すること ・図形の面積の変化について調べる	
			1	〈学びをひろげよう〉 桜の開花日を予想しよう	・1次関数を用いた活動	

2 学 期	10	4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同]	3	<とびら> どんなことが書かれているのかな？ 1節 説明のしくみ	・多角形の内角の和をいろいろな方法で求めること ・多角形の内角の和の求め方を、多角形をいろいろな方法で三角形に分けて考えること ・多角形の表し方 ・多角形の内角と外角の意味 ・多角形の内角と外角の和の性質	【知識・技能】 ・多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 ・平行線や角の性質を理解している。 ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。 ・証明の必要性和意味及びその方法について理解している。
			5	2節 平行線と角	・対頂角の意味とその性質 ・対頂角の性質を用いて角の大きさを求めること ・同位角と錯角の意味 ・平行線の性質と平行線になるための条件 ・平行線の性質を利用して、角の大きさを求めること ・平行線になるための条件を利用して、2直線の平行を判断すること ・三角形の内角の和が180°であることを証明すること ・証明の意味 ・三角形の内角と外角の性質 ・三角形の内角と外角の性質を用いて三角形の内角や外角の大きさを求めること ・多角形の内角や外角の大きさを求めること	
			6	3節 合同な図形	・図形の合同の意味 ・合同な図形の対応する線分や対応する角の関係 ・合同な図形の性質 ・合同な図形を記号を使って表すこと ・合同な三角形をかく方法を考えること ・三角形の合同条件 ・三角形の合同を、合同条件から判断すること ・三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明すること ・仮定と結論の意味 ・根拠となることがらを明らかにして図形の性質を証明すること ・証明のすじ道を考え、根拠となることがらをいうこと ・根拠となることがらのまとめ	
			2	章の問題	・章末問題	
		11	8	<とびら> 直角にラインをひくには？ 1節 三角形	・定義、定理の意味 ・二等辺三角形の定義 ・二等辺三角形の底角の性質 ・二等辺三角形の頂角、底辺、底角の意味 ・二等辺三角形の底角の性質を用いて二等辺三角形の角の大きさを求めること ・鋭角、鈍角の意味 ・二等辺三角形の頂角の二等分線の性質 ・正三角形の定義と正三角形の内角の性質 ・二等辺三角形になるための条件 ・二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明すること ・定理の逆の意味 ・反例の意味 ・斜辺の意味 ・直角三角形の合同条件 ・直角三角形の合同を、合同条件から判断すること ・直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明すること ・三角形の内角の二等分線の性質	【知識・技能】 ・証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 ・定義やことがらの仮定と結論、逆の意味を理解している。 ・反例の意味を理解している。 ・正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。
			12	5章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形]	・四角形の対辺、対角の意味 ・平行四辺形の定義と平行四辺形の表し方 ・平行四辺形の性質 ・平行四辺形の性質を利用して、平行四辺形の角の大きさや辺の長さを求めること ・平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明すること ・乗り物で、人の乗る面がいつも水平になるわけを考えること ・平行四辺形になるための条件 ・平行四辺形になるための条件を利用して、平行四辺形であるかどうかを判断すること ・平行四辺形になるための条件を利用して、図形の性質を証明すること ・長方形、ひし形、正方形の定義と性質 ・直角三角形の斜辺の中点の性質 ・ことがらの反例をあげること ・長方形、ひし形、正方形になるための条件 ・平行線間の距離 ・底辺を共有し、底辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積は等しいこと ・高さの等しい三角形の面積の比は底辺の比に等しいこと ・面積を変えないで多角形を変形すること	
	1		12	2節 平行四辺形	・長方形、ひし形、正方形の定義と性質 ・直角三角形の斜辺の中点の性質 ・ことがらの反例をあげること ・長方形、ひし形、正方形になるための条件 ・平行線間の距離 ・底辺を共有し、底辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積は等しいこと ・高さの等しい三角形の面積の比は底辺の比に等しいこと ・面積を変えないで多角形を変形すること	【主體的に学習に取り組む態度】 ・証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。 ・平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
			2	章の問題	章末問題	

3 学 期	2	6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率]	6	〈とびら〉 くじをひく順番は？ 1節 確率	・確率の意味 ・多数回の実験や観察の結果から確率を考えること ・同様に確からしいことの意味 ・場合の数から、計算によって確率を求めること ・あることからの確率を求める手順 ・確率pの範囲が $0 \leq p \leq 1$ であること ・起こりうる場合を、表や樹形図を利用して全部あげ、確率を求めること ・いろいろな確率の求め方 ・あることからの起こらない確率の求め方	【知識・技能】 ・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
			2	2節 確率による説明	・くじびきの順番と当たりやすさの関係について調べること ・スクラッチカードの出やすさについて説明すること	
			2	章の問題	・章末問題	
	3	7章 データを比較して判断しよう [データの比較]	4	〈とびら〉 どんな商品がよく売れるのかな？ 1節 四分位範囲と箱ひげ図	・箱ひげ図、四分位範囲でデータを表すこと。 ・複数のデータの分布の傾向を比較すること。	【知識・技能】 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 【思考・判断・表現】 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
			1	〈学びをひろげよう〉 コンビニのデータ活用	・データを整理、活用する。	
			2	章の問題	・章末問題	

1.評価に関わる教科指導の基本方針および評価計画

- 実験・観察を可能な限り多く取り入れ、探究的に授業を進めることにより興味や関心を高める。
- 基礎・基本の知識を確実に身に付けさせる。
- 応用問題や学力検査問題に対応できるように発展的な指導を取り入れる。
- 科学的な見方・考え方を養うために、発表やレポートを取り入れる。
- 興味・関心を高めるために、ICT機器を活用する。
- 日常生活で起こる事物・現象を科学的に考えられるように指導を心がける。
- 2年後に都立高校入学者選抜学力検査問題に対応できる力を養えるように授業を進める。

2.評価の3観点と評価方法

◎評価の3観点

- ①知識および技能・・・・・・・・自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験に関する基本的な技能を身につけている。
- ②思考・判断・表現・・・・・・ 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を科学的に探究する力を養う。
- ③主体的に取り組む態度・・・ 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

◎評価から評定への総括方法 (評定への3観点の割合は学習内容によって異なります)

評価方法	授業の様子	実験・観察レポート	定期テスト	小テスト	宿題
①知識・技能		◎	○	◎	
②思考・判断・表現		○	◎	○	
③主体的に学習に取り組む態度	◎	○	△	△	○

【観点別評価】

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

学期	月	学期項目・内容	評価基準
1	4	2 《生物のからだのつくりとはたらき》	《生物のからだのつくりとはたらき》 ・生物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、生物とからだのつくりとはたらきについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察や実験の技能を身につける ①。
	5	1章 生物と細胞 2章 植物のからだのつくりとはたらき	・生物のからだのつくりとはたらきについて見通しをもって解決する方法を立案して観察・実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見出して表現する ②。
	6	3章 動物のからだのつくりとはたらき 4章 刺激と反応	・生物のからだのつくりとはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする ③。
	7	1 《化学変化と原子・分子》	《化学変化と原子・分子》 ・さまざまな化学変化についての実験を通して、物質の成り立ち、物質どうしの化学変化、酸化と還元、化学変化と物質の質量変化、化学変化とその利用について理解するとともに、それらの観察・実験に関する技能を身につける ①。
	9	1章 物質のなり立ち 2章 物質どうしの化学変化	・化学変化について見通しをもって解決する方法を立案して観察・実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する ②。
	10	3章 酸素がたがわる化学変化 4章 化学変化と物質の質量 5章 化学変化とその利用	化学変化と物質の質量に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする ③。
	11	3 《天気とその変化》	《天気とその変化》 ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素・気象観測・霧や雲の発生・前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける ①。
2	12	1章 気象の観測 2章 雲のでき方と前線	・気象観測や天気の変化、自然の恵みと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察・実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性などを見出して表現する ②。
	1	3章 大気の動きと日本の天気	気象観測や天気の変化、自然の恵みと気象災害に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする ③。
	2	4 《電気の世界》	《電気の世界》 ・電気に関する実験を通して、静電気と電流の関係、電流と電圧、磁界について理解するとともに、それらの観察・実験に関する技能を身につける ①。
	3	1章 静電気と電流 2章 電流の性質 3章 電流と磁界	・電気に関する実験を見通しをもって行い、実験結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見出して表現する ②。 ・電気に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、日常生活と関連づけて考察できるようにする ③。

年間指導計画表および評価規準

〈2年〉

学期・月		題材内容	評価規準（文法・文型事項・基本表現）
1 学 期	4	辞書を読んでみよう Program 1 Start of a New School Year	意欲的に辞書を引き、調べようとする。（主） 未来を表す表現や接続詞 when を理解し使うことができる。 （知・技） 条件や仮定を言う会話をするすることができる。（知・技）
	5	情報をつながけながらメモをとろう Program2 Leave Only Footprints	マッピングなどを活用して情報を聞き取ったり伝え合ったりすることができる。（思・判・表）（主） 接続詞 that を理解し使うことができる。「～しなければならない」「～してはいけない」という表現を理解し使うことができる。（知・技）
	6	天気予報を聞こう 電話をかけよう	天気予報を聞いて必要な情報を聞き取ることができる。（知・技） 場面に応じて自分の用件などについて電話で伝え合うことができる。（知・技）（主）
	7	Program3 Taste of Culture 文章の構成を考えよう	不定詞や動名詞を理解し、使うことができる。（知・技） 自分の行きたい場所についての紹介文を書くことができる。 （思・判・表）（主）
2 学 期	8 9	「夢の旅」を企画しよう	自分たちの「夢の旅」について企画しプレゼンテーションすることができる。友達の発表について即興で質問したり、意見を述べる。（思・判・表）（主）
	10	Reading Gon, the Little Fox Program4 High-Tech Nature	物語を読み、概要や登場人物の心情を捉えたり、思ったことについて書いたりすることができる。（思・判・表）（主） 形容詞、副詞の比較級、最上級を理解し使うことができる。 （知・技）
	11	Program5 Work Experience	how to~ , look 形容詞、 become 形容詞などの意味を理解し、使うことができる。（知・技） SVOO の文と SVC の文を理解し、使うことができる。（知・技）
	12	レストランで食事をしよう Program6 Live Life in True Harmony 会話をつなげ深めよう	レストランで注文するときに使う表現を理解し、会話をする（知・技） 受け身形を理解し、使うことができる。（知・技） あいづちなど会話の深め方を理解し、自分の好きな人物について伝え合うことができる。（思・判・表）（主）
3 学 期	1	こんな人になりたい Reading Friendship beyond Time and Borders	既習の表現を用いて、ある人物について即興で伝えたり概要や要点を捉えることができる。（思・判・表）（主） トルコと日本に関する英文を読んで理解することができる。国と国が友好関係を築くために大切なことについて書くことができる。（思・判・表）（主）

	2	Program7 A Gateway to Japan 相手にわかりやすい説明をしよう 空港のアナウンスを聞こう Program8 A Hope for Lasting Peace	現在完了（完了、経験）の用法を理解し、使うことができる。（知・技） 相手が未知のものについてわかりやすく説明することができる。（思・判・表）（主） 空港のアナウンスを聞いて理解することができる。（知・技） 現在完了（継続）や現在完了進行形を理解し使うことができる。（知・技）
	3	説得力のある主張をしよう メールで近況報告をしよう この1年で得た「宝もの」 Reading Visas of Hope	説得力のある主張の仕方を理解し、自分の主張を伝えることができる。（思・判・表）（主） メール文で使う表現や時制を理解し、まとまりのある英文を書くことができる。（技）（思・判・表）（主） 既習の表現を用いて、この1年で得た「宝もの」についてスピーチすることができる。（思・判・表）（主） 杉原千畝に関する英文を読んで、概要や要点を読み取ることができる。英文を読んで思ったことについて、書くことができる。（思・判・表）（主）

令和7年度 音楽科 評価方法（第2学年）

1. 教科の方針

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。授業の発表の場として、合唱コンクールで音楽表現をする。合唱曲の歌詞の内容や曲想を感じ取り、その楽曲ふさわしい表現を工夫することで言語活動の充実を深める。

2. 評価計画

- ・主体的、対話的で深い学びの視点から点数だけでない部分の評価を重視し、表現する楽しさや喜びに結びつける。
- ・授業態度（表現する意欲）やノート（プリント）などの提出物を重視し評価していく。
- ・歌唱や実技テストを定期的に行い、定期考査と同等に評価する。
- ・年間を通して、歌唱、器楽、鑑賞、創作など、幅広い音楽活動を通して評価する。

3. 評価の観点と評価方法

①知識・技能（知識・技能は分けて審査）

②思考・判断・表現

③主体的に学習に取り組む態度

・評価から評定への総括方法

評価項目 評価の観点	定期考査	実技テスト 【項目は下記】	授業の様子	ワーク シート
① 知識・技能	○	○		○
②思考・判断・表現	○	○	○	○
③主体的に学習に 取り組む態度		○	○	○

*実技テスト評価項目

- ①正しい発声，奏法で演奏できているか（技）
- ②音程，リズムが正しくとれているか（技）
- ③曲にふさわしい表現や響きを迫及して表現豊かに演奏できているか（思・判）
- ④真剣な態度でテストに臨んでいるか（態）

2 学年 年間指導計画

2 年生	月	単 元	学習活動	評価規準
1 学 期	4	行事への取り組み① 【歌唱】	歌唱に積極的に取り組む姿勢をつくる。 「校歌」「語り合おう」	【態】（共通）意欲的に取り組んでいるか。 【知・思】形式や思想を理解して歌っているか。 【思・技】楽曲にふさわしい発声で歌っているか。
	5	アルトリコーダー 独奏 【器楽】	基礎的な奏法を理解し、表現を工夫しながら演奏する。 「アニーローリー」	【知・思】表現記号に留意し、表現を工夫しているか。
		日本の音楽 歌曲 【歌唱】	「ユダス マカベウス」	【技】旋律の重なり具合に留意して演奏できるか。
		箏 【器楽】	旋律の美しさを味わう。 「浜辺の歌」「早春賦」	【技】日本語の響を生かしながら歌っているか。
	6		箏の奏法を知り「さくら」など簡単な曲を演奏する	【技】奏法を理解して正しい姿勢で演奏できるか。
	7	合唱コンクール クラス自由曲の選曲	クラスの雰囲気を考えて選曲する。	【知・思】 曲の内容や強弱などを 考え鑑賞、選択できたか。
		混声合唱 【歌唱】	歌詞の内容や曲想、全体の響きなど感じとって曲にふさわしい表現を工夫して歌う。「クラス合唱の曲」	【知・思】表現記号に留意し、歌い方を工夫しているか。
		バ ロ ッ ク 音 楽 【鑑賞】	音楽を形づくる要素を考えながら楽曲の素晴らしさを感じ取る。 「小フーガト短調」	【知・思】形式を理解し、器楽曲の表現を味わって鑑賞できたか。

2 学 期	9 10	行事への取り組み② 【歌唱】	歌詞の内容や曲想、全体の響きなど感じとって楽曲にふさわしい表現を工夫して歌う。(合唱コンクール)	【態】(共通)意欲的に取り組んでいるか。 【知・技】表現記号に留意し、い方を工夫しているか。
	11	オーケストラの様々な年代の音楽【鑑賞】	音楽の多様性を感じ取ってそのよさや美しさを味わう。さらにオーケストラについて学ぶ。(音楽鑑賞教室に向けて)	【知・思】楽曲や作曲者について理解し味わって鑑賞できたか。また、オーケストラについての知識を得ること興味をもつことができたか
	12	アルトリコーダーのアンサンブル【器楽】	基礎的な奏法を理解し、表現を工夫しながら演奏する。 「ふるさと」 「ハレルヤコーラス」	【技】旋律の重なり具合に留意して美しいハーモニーで演奏できるか
		古典派の音楽【鑑賞】	楽曲の背景や作曲者の心情を理解して鑑賞する。「ベートーベン交響曲第5番」	【思・技】楽曲の特徴を理解して表現を工夫する
3 学 期	1	リズムパターンを使って曲を作る【創作】	リズムパターンの組み合わせを工夫し楽曲を作る。	【態】(共通)意欲的に取り組んでいるか。 【知・態】リズムの仕組みを理解し、組み合わせを工夫して簡単な曲を作成できたか。
	2	オーケストラの様々な年代の音楽【鑑賞】	音楽の多様性を感じ取ってよさや美しさを味わう。さらにオーケストラについて学ぶ。(音楽鑑賞教室に向けて) 「ブルタバ」	【知・思】楽曲や作曲者について理解し味わって鑑賞できたか。また、オーケストラについての知識を得ること興味をもつことができたか
	3	日本の伝統的な音楽	わが国で表現されていた音楽の特徴を感じ取る。 雅楽「越天楽」「舞楽」	【知・思】日本の伝統芸能に興味関心をもって特徴を味わうことができたか。
		混声合唱 【歌唱】	曲想を感じ取り、声部の役割や全体の響きを感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫しながら演奏する。	【知・技】表現記号に留意し、歌い方を工夫しているか。

令和7年度 美術科 評価から評定への総括方法

美術科 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

感じ取ったことや考えたことなどを基に表現する活動と伝える、使うなどの目的や機能を考えた表現する機能を経験させる。

評価の観点およびその趣旨

	全学年
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。制作における材料や用具の生かし方や見通しを持って表そうとしている。
思考・ 判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。制作の為に事前に制作資料などの準備をしている。

評価から評定への総括方法 (全学年共通)

評価項目 観点	授業態度 (振り返りカード、 聴く態度、質疑等)	アイデアスケッチ (制作過程の 工夫・試行)	ワークシート レポート	作品	定期 テスト
知識・技能		○	○	○	○
思考・ 判断・表現	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	

令和7年度 美術 2年 年間指導計画および評価基準

- 【知】知識・技能
 【思】思考・判断・表現
 【態】主体的な学習態度

	月	単元	学習活動	評価規準
1 学 期	4	・絵の具、彫刻刀の正しい使い方 ・ピカソ・ゴッホ模写	・有名絵画のピカソ、ゴッホについて調べる ・ピカソ、ゴッホの絵の特徴を理解する ・ピカソ、もしくはゴッホになりきったつもりで二人の作品を模写する	・ピカソ・ゴッホ模写 【学】ピカソ、ゴッホの絵の特徴に気が付くことができている。ピカソ、ゴッホの描いた作品について興味を持って取り組んでいる 【知】時代によってピカソの絵柄が変わることを知る。キュビズムについて理解する。ピカソ・ゴッホの絵を忠実に表現できている 【思】ピカソ、ゴッホの絵の特徴を生かしつつ、自身の作品に落とし込むことができる
	5			
	6	・粘土で和菓子を再現しよう		
	7			
	8			
2 学 期	9	・さまざまな遠近法 ・部屋デザイン	・伝統和菓子の文化について鑑賞 ・制作する和菓子のアイデアまとめ ・作品鑑賞	・和菓子 【学】和菓子の表現に関心を持ち、和菓子の良さや美しさを感じ取ろうとしている 【思】和菓子の目的や機能を踏まえ、形や色彩を美しく表現するために構想を練っている 【知】材料や用具を生かし、創造工夫して形や色彩を美しく表現している - 他者の作品に関心を持ち、作者の発表を聞くことを通して、作品に対する思いや考えを持つことができている
	10			
	11			
	12	・パッケージデザイン		
3 学 期	1		・遠近法の学習 ・身近で立体感や奥行きを感じられる場面と理由を考え、様々な遠近法を知る ・住む人をイメージしながら部屋をデザインし、投影法で表現する	【知】投影法の描き方を理解し、制作手順を考え、見通しをもって作品を完成させることができている 【思】描き方を理解し、住む人を具体的にイメージしながら作品に取り組もうとしている。 【態】実際の見え方を想像しながら表現方法についてイメージし主体的に部屋の構想を練ろうとしている
	2			
	3			

学期	月	体育	保健	補助運動
1学期	4月	集団行動 体づくり運動		ランニングドリル ジャンプトレーニング
	5月	運動会練習 短距離走・リレー	傷害の防止	
	6月	短距離走・リレー 新体力テスト		腕立て伏せ ストレッチ
	7月	新体力テスト 水泳		
2学期	9月	水泳	傷害の防止	水中トレーニング ストレッチ
	10月	ソフトボール 体育理論		馬跳び 体幹トレーニング
	11月	ソフトボール	健康な生活と疾病の予防	ボールを使ったトレーニング 体幹トレーニング
	12月	バスケットボール		ランニングドリル 馬跳び
3学期	1月	陸上（走り幅跳び） 体育理論	健康な生活と疾病の予防	
	2月	サッカー		コーディネーショントレーニング
	3月	サッカー		

令和7年度 保健体育科 2学年 評価方法

教科担当：長谷川

1. 評価に関わる教科指導の基本方針（評価計画）

- ・学習指導要領に基づいたカリキュラムを作成し、言語活動を積極的に取り入れる。
- ・各分野、種目の基礎的な知識を身につけさせる。
- ・授業態度や授業プリントなどの提出物を重視し、評価していく。また小テストなどを通じて、基礎的な知識を定着させる。
- ・年間を通して体育分野と保健分野を学習していく。
- ・ICTを多用し、視聴覚教材をできるだけ活用していく。
- ・主体的な発表授業を通じて、調べる力、発表する力をつける。

2. 評価の観点と評価方法

- ① 知識及び技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

3. 評価から評定への総括方法の一覧表（各観点を総括して数値化し評価します）

評価方法	授業での 取り組み	見学・欠席等、態度、言語活動、ワークシート、安全に留意する姿勢
	実技への 取り組み	運動技能の向上、課題の達成、協働活動
	テストなど への取り組み	ルールの理解、運動特性の理解、教科書や実技所の理解、生活・健康・安全への理解
評価の ポイント	(ア) 知識及び 技能	①ルールや技能のポイントを理解している ②各種目の技能を習得している。 ③生活、健康、安全について理解している
	(イ) 思考・ 判断・表現	①課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組みを工夫している。 ②自分の考えを他者に伝えることができる。 ③仲間と教え合い、チームやペアとのかかわり方を見つけている。 ④安全上の留意点を他の学習場面に当てはめている。
	(ウ) 主体的に学 習に取り組 む態度	①欠席、見学、忘れ物がない。 ②正しい服装をしている。 ③運動や健康に対する興味関心が高く、積極的に取り組んでいる。 ④公正な態度で授業に取り組んでいる。 ⑤自身の学習を深めようとしている。

4. 令和7年度 第2学年 保健体育科 評価規準

体づくり運動

○知識

- ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。

○思考・判断・表現

- ・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

器械運動

○知識・技能

- ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。
- ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。
- ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。

○思考・判断

- ・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

陸上競技

○知識・技能

- ・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。
- ・短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせることができる。
- ・ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。

○思考・判断・表現

- ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

水泳

○知識・技能

- ・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。
- ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。
- ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。
- ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。
- ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。

○思考・判断・表現

- ・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。

球技

○知識・技能

- ・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。
- ・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
- ・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- ・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。

○思考・判断・表現

- ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

体育理論

○知識

- ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解している。

○思考・判断・表現

- ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとしている。

保健

○知識・技能

- ・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。

○思考・判断・表現

- ・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

令和7年度 小岩第三中学校 技術科 観点別評価の方法

1 目標

- ① 生活や社会で利用されている材料、加工。生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- ② 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど課題を解決する力を養う。
- ③ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価の観点

〔知識・技能〕

生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

〔思考・判断・表現〕

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

3 評価方法の一覧表（学期ごとに○が付いている方法から選択し評価します。）

項 目	授業での取り組み					定期考査等		
	聞く姿勢	ワークシート	プリント	用具等の取扱い	作品製作の過程	作品	定期考査	実技テスト 課題・宿題等 作業日誌
知識 技能		○			○	○	○	○
思考 判断 表現					○	○	○	○
主体的に学習に 取り組む態度	○	○	○	○	○	○		○

【観点別評価】 (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現
(態) …主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価の観点
4	生物育成に関する技術	・生物育成の技術の目的を知る。 ・食料の生産 ・材料・燃料の生産 ・健康・医療など ・自然環境の保全 ・生物育成の技術についてまとめる。 ・育成環境を調節する技術 ・生物の成長を管理する技術 ・生物の特徴を改良する技術 ・地域の特産物を調べ、どのような技術が用いられているか調べ、まとめる。	・生物を育てる技術の目的について理解している。(知) ★主体的に生物育成の技術について考えようとしている。(態)
	植物を育てる技術を知ろう	・植物の育成環境を調節する技術について調べる。 ・光の管理 ・温度の管理 ・水分の管理 ・土の管理 など ・スプラウトの育成を行い、育成環境を調節する技術を体験する。	・植物の育成環境を調節する技術について理解している。(知) ・育成環境を工夫してスプラウトを育成することができる技能を身に付けている。(知)
	物の成長を管理する技術を知ろう	・作物の成長を管理する技術について調べる。 ・作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめる。	・作物の成長を管理する技術について理解している。(知)
5	生物育成の技術の工夫を読み取ろう	・生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 ・食料の生産における問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。	・生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)
6	問題を発見し、課題を設定しよう	・家庭、学校、地域、社会における生物育成の技術によって解決できる問題を見つける。 ・発見した問題を解決するための課題を設定する。	・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
	生物の育成計画を立てよう	・作物やその品種に応じた育て方を調べ、栽培計画表にまとめる。	・育成する作物に適した環境条件について考えている。(思) ・育成する目的に合わせて、栽培計画を立てる力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
	植物や環境を観察して育成しよう	・安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う。 ・定植 ・支柱立て・誘引 ・かん水 ・元肥・追肥 ・摘芽・摘芯・受粉 ・健康管理、病害虫駆除 ・収穫 ・管理作業の内容を、栽培記録表にまとめる。	・植物の成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行う技能を身に付けている。(知) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)

月	学習項目	学習内容	評価の観点
6	問題解決の評価, 改善・修正	生物育成の技術による問題解決を振り返り, 解決結果及び解決過程を評価し, 改善・修正する方法について考える。	- 育成の過程や問題解決の結果を評価し, 改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り, よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)
	生物育成の技術の最適化	- 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り, 社会の問題解決における最適化と比較する。 - 社会からの要求 - 安全性 - 環境への負荷 - 経済性 - 生物育成の技術のプラス面, マイナス面について考え, これからどのように技術の最適化を図っていくとよいかをまとめる。	- 生物育成の技術の概念について理解している。(知) - 生物育成の技術の最適化について考えている。(思)
	これからの生物育成の技術	持続可能な社会の構築のために, これからの生物育成の技術について考える。	- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生物育成の技術を評価し, 適切な選択, 管理・運用, 改良, 応用について考えている。(思) ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて, 生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。(態)
7	エネルギー変換の 技術とは何だろう	- 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について調べる。 - エネルギー変換効率について知る。	- 生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について理解している。(知) ★主体的にエネルギー変換の技術について考えようとしている。(態)
	発電の仕組みと特徴	- 発電の仕組みと特徴についてまとめる。 - さまざまな発電方法のプラス面, マイナス面について調べ, 適切な発電構成割合について自分なりに考える。	- 発電の仕組みと特徴について理解している。(知) - さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えている。(思)
	電気を供給する仕組み	- 電源の種類と特徴についてまとめる。 - 送電・配電について調べる。	- 電源の種類と特徴や, 送電・配電の仕組みを理解している。(知) - 送電・配電の技術の工夫について考えている。(思)
	電気回路について考えよう	- 電気エネルギーを利用する仕組みを調べる。 - 電気回路について, 電気用図記号を用いた回路図で表す。	- 電気回路の仕組みについて理解している。(知) - 簡単な電気回路を回路図で表すことができる技能を身に付けている。(知)
	電気機器を安全に 使用するための技術	- 電気を安全に使うための技術の工夫について調べ, まとめる。 - 漏電 - 感電 - 電気機器の安全な使い方について考える。	- 電気機器の安全な使い方について理解している。(知) - 電気による事故を防ぐ方法について考えている。(思)

月	学習項目	学習内容	評価の観点
9 10 11 12	電気回路を設計・ 製作しよう	- 設計要素を検討する。 - 電源 - 制御 - 負荷 - 構想をまとめ、製作に必要な図を描く。 - プロトタイプ（試作）、シミュレーションを行う。 - 目的の電気回路が決まったら、安全に配慮し、製作、実装、点検・調整を行う。	- 構想に基づいて設計し、電気回路の回路図や組立図にまとめることができる技能を身に付けている。（知） - 構想に基づいて、製作の計画を立てる力を身に付けている。（思） ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。（態） ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。（態）
12 1 2 3	運動エネルギーへの 変換と利用	- 機械が運動を伝える仕組みについて調べる。 - 機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめる。 - 直線運動 - 回転運動 - 揺動運動	- 機械が運動を伝える仕組みについて理解している。（知） - 運動の種類とエネルギー変換について理解している。（知）
	回転運動を伝える仕組み	- 回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を調べる。 - 回転速度と回転力の関係を調べる。	回転運動を伝える仕組みの特徴と用途を理解している。（知）
	機械が動く仕組み	- 往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク機構やカム機構の仕組みを調べる。 - 流体を用いて動く機械や熱エネルギーで動く機械を調べる。	- リンク機構やカム機構について理解している。（知） - 熱や水、空気などの流体を用いたエネルギー変換の特性について理解している。（知）
	機械の共通部品と 保守点検の大切さ	- 機械の共通部品について知る。 - 機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知る。 - 身近な機械の保守点検をする。	機械の共通部品と保守点検の大切さについて理解している。（知）
	エネルギー変換の技術の工夫を読み取ろう	- エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 - 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。	エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。（思）
	問題を発見し、 課題を設定しよう	- 生活や社会における光、熱、動力などのエネルギー変換の技術によって解決できる問題を見つける。 - 発見した問題を解決するための課題を設定する。	「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。（思）

評価計画

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点

観点	評価の観点の趣旨
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

評価から評定への総括方法

(学期ごとに○がついている方法から選択し評価します。)

	授業での取り組み					定期考査等	
	聞く姿勢	ノート・ワーク プリント	用具等の取り扱い	作品製作の過程	作品	定期考査	課題・宿題等 レポート
知識・技能			○	○	○	○	○
思考・判断・表現		○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○		

2 学年 年間指導計画および評価規準 (計 35 時間)

学期	月	単元名	時数	指導内容	評価規準
1	4	A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活	3	・家庭分野科のガイダンス	昨年の学習を振り返り、中学校3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。＜主＞
	5	B 衣食住の生活 (4) 衣服の選択と手入れ	4	・衣服の働き ・目的に応じた着用 ・個性を生かす服装 ・和服の文化	既制服の表示の意味について理解し、既制服を選択するための情報を収集、整理することができる。＜知・技＞ 和服の文化に興味を持ち着方、たたみ方を学ぶ＜知・技・思・判＞ 衣服の補修の目的と布地に適した方法について理解し、実践することができる。＜知・技＞
	6		3	生活に役立つものを作る	
	7	(5)生活を豊かにするための布を用いた製作	3	基本縫い、ほころび直しの方法	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を自分なりに工夫し安全に用具を取扱い、目的に応じた縫い方で製作することができる。＜知・技・思・判・表・主＞
		(4) 衣服の選択と手入れ		・生活を豊かにする工夫 ・製作の計画 ・基本的裁縫技能、用具の活用	衣服の着用、選択、手入れについて関心を持ち、衣生活をよりよくしようとしている。＜思・判・表＞
2	9		3	・衣服の計画的な活用 ・既制服の選択と購入 ・衣服の手入れ	
	10	(6) 住居の機能と安全な住まい方	4	・住まいの役割 ・生活行為と住空間 ・日本の住まいと住まい方 ・安全で安心な住まい	さまざまな住まいを知り、住まいに関心を持ち、住生活をよりよくしようとしている。＜主＞ 住まいの役割や基本的な機能について理解している。＜知＞
	11		4	・健康で快適な住まい ・より良い住生活を目指して	家族が安全で快適に住むための方法を考え、工夫している＜思・判・表・技＞
	12	3 消費者被害と消費者の自立 C 消費生活と環境 (1) 金銭の管理と購入	2	・消費者としての自覚 ・販売方法と支払方法 ・計画的な金銭の管理とクレジットカード ・商品の選択と購入 ・消費者トラブル	自分や家族の消費生活や環境とのかかわりについて関心を持ち、消費生活をよりよくしようとしている。＜主＞ 物資・サービスの適切な選択、購入および活用について必要な情報を理解し、収集・整理することができる。＜知・技＞
				・消費者の権利と責任 ・より良い消費生活を目指して ・エネルギー消費と環境 ・持続可能な社会を目指そう	
3	1	(2) 消費者の権利と責任	3		自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。＜主・知・技＞
	2		4		
	3		2		